

『だれかの笑顔のために』

ある日の教室で・・・

教師をしていると、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。ある日の教室での出来事を紹介します。

ある中学校で3年生の担任をしていました。恒例の文化祭の合唱コンクールが近づいていました。合唱コンクールに向けての練習を始める前に、クラスみんなに私はこう言いました。「いつも合唱コンクールになると、みんなに一生懸命に歌いなさいと一方的に言っていた。今日は私がみんなのために歌います。」と言って、ギターを弾きながら歌ったのです。子どもたちは喜んでくれて、「先生、みんなで一緒に歌いましょう。」と盛り上がってくれました。最後に、教室のみんなで輪になり、「栄光の架け橋」を大合唱しました。その様子を見て、合唱コンクールで伴奏を担当する予定の女子生徒が泣き始めたのです。

「みんながひとつになっている・・・。」と感動したのだそうです。歌い終えた後、男子生徒が言いました。

「俺たちひとつになっている。合唱コンクール勝ったね！」

翌週、合唱コンクール本番。実は隣のクラスに負けてしまったのです。しかし、あまりくやしくありませんでした。みんなでひとつになって歌ってくれた感覚があったからだと思います。通常、優勝したクラスが玉名荒尾の合唱コンクールに学校代表として出場します。しかし、その時、隣のクラスのみんなが私のクラスも一緒に合同で出ようと言ってくれたのです。そして、合唱コンクールには2クラス合同で出場しました。



時は流れて・・・

いよいよ卒業式が近づいてきました。その中学校では卒業前にサッカーのクラスマッチをするのが恒例です。みんな燃えています。私のクラスも隣のクラスも、サッカーのクラブチームに参加している生徒、サッカー部の生徒がいて、お互いに絶対に負けたくないと燃えていたのです。

いよいよクラスマッチ本番。結果は私のクラスの勝利でした。クラスマッチではありますが、隣のクラスの男子数名が負けたくやしさに泣いています。体育担当の先生から、「井上先生、一言まとめをお願いします。」と子どもたちに話をする機会を頂きました。そして、次のように話しました。

「試合をすれば、必ず勝ち負けが決まる。それは、仕方がない。でも、どちらのクラスも一生懸命頑張ってくれた。ありがとう。そして、私は君たちの優しさを忘れてないよ。秋の合唱コンクールの時、私のクラスは負けた。でも、その時、みんなは一緒にコンクールにでようと言ってくれた。そんな君たちの優しさを絶対忘れない。そんな君たちが私の誇りです。」と私も泣きながら話しました。



クラスマッチ終了後、隣のクラスの男子数名が、泣きながら「ありがとうございました。」と私に握手をしに来てくれたのです。その光景が今でも忘れられません。

その時、私と泣きながら握手を交わした生徒の1人が、現在プロ野球の「西部ライオンズ」の1軍で活躍してくれています。教え子の活躍を見ることが、教師の喜びの一つです。

子どもたちと一緒に生活していると、たくさんの感動と出会うことができます。それが、教師という仕事の魅力だと感じています。